

フィールドワーク・グループ討議から見えてきた課題

【1】自治会運営をする上での課題

① 少子高齢化

住民の声

- ・ 役員の選出がむずかしい。一度役員になると交代できない。
- ・ リーダーとなる人が少なく、前向きに取り組めない。
- ・ 集落の役員は、一人当たり3～4つ受けて、組織が出来ている。
- ・ 高齢化が著しい。
- ・ 女性も高齢で集落の役が当たった時、体への負担が大きい。また集落の人口が少ないので何回も役が当たる。
- ・ 地域づくり協議会を分かっている住民が少ないと思う。協議会活動は、自治会からの協力も不可欠である。地域づくり協議会活動も、自治会から出てこられる人は、いつも同じ人で、その人には負担が重くのしかかっている。

【課題】

1) 慢性的な役員の高齢化と役員のなり手不足

【気づきのポイント】

- 1) 自治会は地域住民全員で運営している事の再認識
- 2) 若い世代の協力
- 3) 自治会相互協力体制づくりの推進

住民の声

- ・ 単独集落でいろいろな行事ができなくなってきている。
- ・ 共同作業について、出役人数は減少し、今やっている人ができなくなったときは共同作業がむずかしくなり、集落の環境保全が困難になる。
- ・ 集落でお宮を抱えているが、高齢化でお参りが出来なくなった人がある。今後、お宮の維持が難しくなる。
- ・ 祭りは、今のところ協力して出来ているが、負担がかかり、協力できる人が偏っている。

【課題】

1) 集落機能の低下。

【気づきのポイント】

- 1) 複数集落での行事開催や自治会施設を維持する自治会相互協力体制づくりの推進

【2】日常生活をする上での課題

住民の声

- ・ 商店等がある三日月の町なかまでは遠いので、買い物等に困っている。移動販売もなくなった。さよさよサービスなどもあるが、いつも利用するわけにいかない。
- ・ 店も少なく、食料品を購入できる店も1つしかない。
- ・ 交通の問題がある。一人暮らしで、車にも乗れなくなり、買い物にも行けなくなった人がある。
- ・ 集落単独での交通の確保は難しい。
- ・ 日用品の移動販売があればいいと思う。
- ・ 交通の件については、家族がいても家族には頼みにくい。

【課題】

1) 高齢者等のための買い物、通院等の交通手段がない。

【気づきのポイント】

1) 地域づくり協議会を中心に、江川地域づくり協議会のような地域交通システムの構築

2) 個人が個人を助ける地域に根ざした交通システムの構築
(民間レベルでの助け合いによる制度)

住民の声

- ・ 田の管理が出来ない。畑は何とか維持が出来ている。
- ・ 空き地の荒廃化の問題がある。土地所有者にも連絡が取れず、草木が生い茂っており、住環境によくない。
- ・ 田畑の管理については、中安校区は、放棄田を無くする方針でやっています。また、土井集落はオペレーターを消防団員にお願いし、営農よりも農地を保全管理する方向性で進めています。

【課題】

1) 耕作放棄田の増加による、集落環境の荒廃化。

【気づきのポイント】

1) 地元出身者の協力による担い手の拡大。
2) 耕作放棄田を利用した新たな担い手の確保。

推進会議の意見

- ・ 田んぼの管理については、民間業者に委託する。社会福祉協議会など行政システムの中で解決する。

【3】防災上での課題

住
民
の
声

- ・ 団員数32人のうち、消防行事に出てこれるのは最大20人程度、毎月の点検等に出るのは10人あまりという状況であり、6集落と範囲も広いので災害があった場合は不安である。
- ・ 昔の退団年齢になっても、次の新入団員がいないので、やめることが出来ない。

【課題】

- 1) 消防団員の確保が困難になってきており、防災力の維持に支障をきたしている。防災活動への参加率が低下している。

【気づきのポイント】

- 1) 自治会での消防団に関する啓蒙の推進
(募集パンフレットの作成配布)

住
民
の
声

- ・ 昼間は町外に勤めているので、昼間の緊急時は、すぐに帰ってこられない。
- ・ 地元勤務者が少なく、地元の力になりにくい。

【課題】

- 1) 昼間の災害時の対応が困難となっている。

【気づきのポイント】

- 1) 消防団員OB及び女性を中心とした昼間の消防、防災体制

住
民
の
声

- ・ 災害が起きた場合、安全といえる場所の確保が、集落では負いきれない。
- ・ 自主防災組織を、早く何とかしなければならぬと感じている。
- ・ 今のところ、集落行事は、みんなで協力して出来ている。防災面は、昼間は女性しかいない時もあり、日頃からの訓練が大切と感じた。
- ・ 防災マップを中安地域づくり協議会で作成した。2年前に取り組み、今年見直しをした。
- ・ 災害時に体の不自由な人を助けることが困難である。
- ・ 今年度から、地域をあげて防災力を強化する訓練を始め、地域一体となって防災に取り組むことにした。

【課題】

- 1) 安全な避難所が確保しにくい。また、自主防災組織の構築と積極的な取組が必要となっている。

【気づきのポイント】

- 1) 自主防災組織の立ち上げによる対応能力の向上
- 2) 自主防災組織の活動班ごとの行動計画の策定
- 3) 継続した防災訓練の実施
- 4) 小規模集落の相互協力による自主防災組織の立ち上げ

推進会議の意見

.....

.....

.....

.....

.....

【4】その他の課題

住民の声

- ・ 空き家情報の把握・管理などをはじめ、町の支援が必要である。
- ・ 定住促進の取り組みとして、篠山では空き家情報を自治会長より入手・活用し、町の活性化のため意欲のある人に来てもらうようにしている。
- ・ 私の住んでいる集落から都市部に出た若い人は、もう帰ってこないと思う。
- ・ 空き家が増加(10年前より5戸増)しており、管理ができていない空き家がある。
- ・ 空家を売りたい人がいる。

【課題】

- 1) 空き家が目に見えて増加しており、管理がなされておらず廃墟のようになっているところもある。空き家の有効利用が必要である。

【気づきのポイント】

- 1) 空き家の利用促進と所有者、自治会、行政の協働による対策
- 2) 所有者への情報提供と現況報告

住民の声

- ・ 旧町の中心部に住んでいるが、100戸くらいの集落に小学生が6人しかいない。
- ・ 葬儀については、民間の葬儀屋等の利用で出来ており、自宅での葬儀は、今後難しくなる。
- ・ 葬儀は、やり方を変えていかないと出来なくなってきた。たとえば、隣保間の協力も一つのやり方です。
- ・ 長い目で見て、実行できる体制を作らないといけない。

【課題】

- 1) 葬儀すら困難になってきている。

【気づきのポイント】

- 1) 葬儀すら出来ないような、人口減少と高齢化の進行
- 2) 地域内コミュニティの崩壊
- 3) 自治会相互協力体制づくりの推進と複数集落での人的な協力
- 4) 民間事業者の活用

